

『は、離してください！お願いします…！』

『へへ：そうはいかないんでね？女子高生の割に良い身体してんじゃねえか』

一人の男が怯える女の子の腕を掴みニヤついた笑みを浮かべている。

『いいからさっさと車に乗れや。こっちも早く済ませたいんだよ』

『や、やだあ：助けてえ！』

ブレザー制服の少女が暴れてる。やたらリアルな演出に期待が高まる。男は少女を無理やり車に押し込もうとするが抵抗されてしまう。そこでカメラアングルが変わり、一瞬少女の顔が映る。

「え…？」

俺はその顔に見覚えがあった。間違い無い、さっきまで話してた俺の初恋の相手、白崎紫央里本人だ。

「ちょ！なんで、なんだこれ…」

動画はそこで一度暗転する。

テロップが表示されて次に映し出されたのは、どこかの部屋で椅子に縛られ目隠しと猿ぐつわをされた紫央里の姿だった。ブラウスを着ているがボタンは全て外されていてブラも脱がされている。スカートも捲り上げられていてパンツも丸見えだ。黒いチョーカーま